

(2022.08.23)

健康日記

(和の心を暮らしに活かす「室礼」^{しつらい}): お盆)

個人であるご先祖様をしのび語り継ぐことが供養になります。



お盆

祖霊をお迎えし、おもてなしをするお盆。正しくは「盂蘭盆会^{うらんぼんえ}」と言います。「盂蘭盆」の「うら」は「逆さづり」にされたような苦しみのことを意味し、インドの古典語であるサンスクリット語の「ウラバンナ」を音訳したものです。

お釈迦様の弟子、目連^{もくれん}が 餓鬼道^{がきどう}に落ちて苦しんでいる母親を救い出すためにお釈迦様の教えに従って旧暦7月15日に供養したのがお盆の始まりだと言われています。

また「盆」は霊にささげるお供え物を盛る器でもあります。それがお供え物をささげる霊その物への呼び名となり、霊を「ボンサマ」と呼ぶ地域もあります。先祖の霊を大切にしている日本の風習とお釈迦様の教えが結び付き、祖先の霊を迎えて慰めるお盆の行事が行われるようになったのです。

現在では新暦7月15日にお盆を行う地方もありますが、旧暦本来の季節に近い月遅れの8月15日を中心に行うところがほとんどです。

先祖の霊はあの世から現世に戻ってきて現世の私たちと過ごし、再びあの世に帰って行くのです。

近年はお盆休みに遠方から帰省し、お墓参りをする風潮があります。家族や親戚の皆さんで先祖様や故人をお迎えし、もてなしお送りするのがお盆の行事です。

お盆の室礼

蓮・散華^{はす きんげ}



蓮は浄土に咲く花で、仏様を象徴する花です。散華は仏教の法会でまく蓮の花びらの形をした紙です。蓮の生花の代わりに浄土や仏の教えを象徴するものです。

迎え火

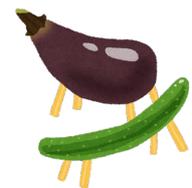
玄関先に麻幹^{おがら}をたいて精霊^{しょうろう}をお迎えします。精霊はキュウリの馬に乗り、ナスの牛に荷物を乗せて戻ってくるという言い伝えがあります。

季節の野菜・果物

真菰^{まこも}に季節の野菜や果物を盛り、祖霊をお迎えする精霊棚としました。

[真菰]—水辺に自生するイネ科の植物で、精霊棚の敷物にする。

[野菜・果物]—お盆のころ盛りを迎えるものを供える。



*自然と関わり、物に寄せて思いを陳(の)べる「寄物陳思(きぶつちんし)」の心。季節を盛り、言葉を盛り、心を盛る。室礼を通じて、その大切さと楽しさを、より多くの人に知ってほしいと願っております。